

授業科目名： 宗教学	教員の免許状取得のため の 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡野 浩 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校社会及び高等学校公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 中学社会：「哲学、倫理学、宗教学」 高等学校公民：「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 ・多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「宗教とは何か」、世界の諸宗教の歴史、特徴等についての基礎的な知識を身につける。 (2) 教育の場においても予想される宗教的な問題に対して、適切に対処するための基本的見識を養う。 (3) 自分自身の内なる宗教性と同様に、生徒や保護者等他者の内なる宗教性をも尊重し、大切に出来るような「開かれた宗教理解」のための土台作りを行う。 			
<p>授業の概要</p> <p>宗教についての話題が社会科の中で主として扱われていることを考慮し歴史的な流れをメインとして話題を展開することとする。また現代社会のグローバル化を考慮し、異文化や異宗教の人々と互いに尊重し合い協力し合って生きる為の手掛かりとしての宗教理解の意義についても考えたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：宗教学とは何か 第2回：なぜ宗教について知ることが大切なのか 第3回：社会的な組織や制度あるいは文化の一種として、目に見える、制度・風習としてとらえる立場 第4回：人間の心の特質として、目に見えない、自分の問題としてとらえる立場 第5回：世界の四大宗教とはなにか 第6回：キリスト教 第7回：イスラム教 第8回：仏教</p>			

第9回：儒教

第10回：日本の宗教とは何か 神道

第11回：日本仏教

第12回：江戸時代の新宗教

第13回：明治以降の新宗教

第14回：現代の新宗教

第15回：新宗教の良い面と考えるべき点を具体的に考察する

定期試験

スクーリングでの学修内容

- (1) 「宗教とは何か」その起源・人間存在との密接な関わりを学ぶ。
- (2) 世界の四大宗教などの宗教について学ぶ。
- (3) 「日本の宗教とは何か」その起源・人間存在との密接な関わりを学ぶ。
- (4) 生活の中にとけこんでいる宗教について学ぶ。
- (5) 日本の近代以降の新宗教について学ぶ。

教科書

『カラー版徹底図解 世界の宗教－開祖・教養・歴史から聖地や美術作品まで－』新星出版社

参考文献

山折 哲雄『世界宗教大事典』平凡社 1991年

渡辺 和子『オールカラーでわかりやすい！世界の宗教』西東社 2015年

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。